節ないし局面を生じる．これに血管腫の要素を伴うものを eccrine angiomatous hamartoma といい，四肢に好発する．

6. アポクリン母斑　apocrine nevus

脂腺母斑ではアポクリン腺の増殖を伴いやすいが，ごくまれにアポクリン腺の増殖のみを認める過誤腫があり，これをアポクリン母斑という．頭部または腋窩に生じる丘疹，小結節である．

C. 間葉細胞系母斑　mesenchymal-cell nevi

1. 結合組織母斑　connective tissue nevus

膠原線維，弾性線維ないしムチンが増生した結果，主に体幹に正常皮膚色の軽度隆起した局面や結節が出現する（**図 20.25, 20.26**）．種々の基礎疾患を背景に生じることが多い（**表 20.1**）．

図 20.25　結合組織母斑（connective tissue nevus）

2. 表在性皮膚脂肪腫性母斑
nevus lipomatosus cutaneous superficialis

脂肪細胞が真皮内で異所性に増殖し，直径数 cm までの軟らかい黄色結節を生じる（**図 20.27**）．先天性のものと成人になって生じるものがある．

3. 軟骨母斑　cartilage nevus

軟骨を含んだ，半球状で正常皮膚色の丘疹が出現する．耳周辺で生じたものを副耳（accessory auricle, ear tag）と呼ぶ．胎児期鰓弓（さいきゅう）発生障害に伴う．

図 20.26　Buschke-Ollendorff 症候群に生じた結合組織母斑
右季肋部に弾性線維の増加による局面がみられる．常染色体優性遺伝．

4. 平滑筋過誤腫　smooth muscle hamartoma

同義語：平滑筋母斑

立毛筋部の過誤腫（**図 20.28**）．腰部，仙骨部に好発し，生後 6 か月以内に発症することが多い．境界がやや不明瞭な淡褐色斑で，しばしば多毛を伴う．

表 20.1　結合組織母斑を生じる基礎疾患

図 20.27　表在性皮膚脂肪腫性母斑（nevus lipomatosus cutaneous superficialis）

図 20.28　平滑筋過誤腫（smooth muscle hamartoma）

D. 皮膚の色素異常を伴うその他の母斑　other nevi with skin color change

1. カフェオレ斑　café-au-lait spot（macule）★

境界明瞭な直径 0.5 ～ 10 cm の淡褐色斑で，皮膚色以外の変化を認めない（**図 20.29**）．多くは生下時に出現し，2 ～ 3 歳までに明瞭化する．単発のものは健常人の約 10％でみられる．病理組織学的にはメラノサイト系母斑細胞の増加はなく，基底層でメラニン顆粒の増強を認める．カフェオレ斑が多発する場合は神経線維腫症 1 型や McCune-Albright（マッキューン オールブライト）症候群，Legius（レジウス）症候群などを疑う．治療はカバーメイクアップや一部の症例では

McCune-Albright 症候群 ★　MEMO

図 20.29　カフェオレ斑（café-au-lait spot）